

(2) ② 様式第3 記載要領

[設置届出記載例]

様式第3・・・①

②

一般粉じん発生施設設置（使用、~~変更~~）届出書

令和4年5月1日

③

広島県〇〇厚生環境事務所長 様

④（下記代理人）

届出者 住所 〒723-**** 三原市円一町〇丁目1-1

名称 〇〇食品工業（株）広島工場

氏名 工場長 〇〇 〇〇

電話 08*(***)****

（代表者） 〒104-**** 東京都中央区京橋〇丁目1-1

〇〇食品工業（株）

代表取締役 〇〇 〇〇

⑤

大気汚染防止法第18条第1項（~~第18条第3項、第18条の2第1項~~）の規定により、一般粉じん発生施設について、次のとおり届け出ます。

⑥	工場又は事業場の名称	〇〇食品工業株式会社 広島工場	※ 整理番号	
⑦	工場又は事業場の所在地	〒723-**** 三原市円一町〇丁目1-1	※ 受理年月日	年月日
⑧	一般粉じん発生施設の種類の種類	1. コークス炉 1 施設	※ 施設番号	
⑨	一般粉じん発生施設の構造並びに使用及び管理の方法	別紙1 から別紙4 のとおり。	※ 審査結果	
			※ 備考	

- 備考 1 一般粉じん発生施設の種類の欄には、大気汚染防止法施行令別表第2に掲げる項番号及び名称を記載すること。
- 2 変更の届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 3 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本工業規格A4とすること。

[記載要領]

- ① 様式第 3 同一の工場又は事業場に設置されるものであって、かつ、令別表第 2 の項番号が同一の場合に限り、1 つの届出書で届出できる。
- ② 届出の内容 不要な文字を抹消すること。
 (ア)設置届・・・施設を新たに設置する場合
 (イ)使用届・・・大気汚染防止法施行令の改正により新たに一般粉じん発生施設になった場合
 (ウ)変更届・・・既に届出をしている施設において、別紙の届出内容を変更する場合
 広島市内・・・広島市長（環境保全課） 福山市内・・・福山市長（環境保全課）
 呉市内・・・呉市長（環境管理課）
 その他の地域・・・管轄の広島県各厚生環境事務所（支所）長（環境管理課、支所にあつては衛生環境課）
 事務・権限移譲された市町においては各市町の長
 ※事務・権限移譲については、県のホームページ等で最新情報を参照してください。
- ③ 受信者名（提出先）
- ④ 届出者 住所・名称及び氏名（電話番号）を記入すること。
 法人にあつては、法人を代表する者の職と氏名を記入すること。
 また、法人代表者の代理人を届出者とする場合には、記載例の様に代表者と代理人を併記するとともに、委任状を添付すること。
- ⑤ 根拠規定 不要な文字を抹消すること。
 不要な文字とは、(ア)設置届出の場合・・・第 18 条第 1 項以外の文字
 (イ)使用届出の場合・・・第 18 条の 2 第 1 項以外の文字
 (ウ)変更届出の場合・・・第 18 条第 3 項以外の文字
- ⑥ 工場又は事業場の名称 略称を用いないこと。
- ⑦ 工場又は事業場の所在地 郵便番号及び住居表示を正確に記入すること。
- ⑧ 一般粉じん発生施設の 大気汚染防止法施行令別表第 2 の項番号、名称及び施設数を記入する。

種類【参考】令別表第 2

項	施設の種類	規模要件（～以上）
1	コークス炉	原料処理能力 50 t / d
2	鉱物、土石の堆積場	面積 1,000 m ²
3	ベルトコンベア、バケットコンベア	ベルト幅 75 cm, バケット内容積 0.03 m ³
4	破碎機、摩砕機	原動機定格出力 75kw
5	ふるい	原動機定格出力 15kw

(注) ベルトコンベアは、ホッパー、破碎機等の施設で区切られ設置されたコンベア単基の集合を全体として一施設とする。

- ⑨ 一般粉じん発生施設の 不要な文字は抹消するとともに、設置する施設により別紙番号を訂正すること。
 構造並びに使用及び管理の方法

[設置届出記載例]

別紙1

一般粉じん発生施設（コークス炉）の構造並びに使用及び管理の方法

①	工場又は事業場における施設番号	11	
②	名称及び型式	No.1 コークス炉 オートー式	
③	設置年月日	年月日	年月日
	着手予定年月日	R4年6月20日	年月日
	使用開始予定年月日	R4年8月1日	年月日
④	規模		
	原料の処理能力 (t/d)	4,520	
	炉室数	110	
	炭化時間 (h)	15.5	
⑤	装炭	一般粉じんの処理装置の種類・ 型式	無煙装炭装置 湿式スクラバー
	作業	集じん機効率 (%)	96
		送風機の原動機出力 (KW)	120
⑥	窯出	一般粉じんの処理装置の種類・ 型式	集じんフード 湿式スクラバー
	作業	集じん機効率 (%)	95
		送風機の原動機出力 (KW)	10
⑦	消火作業	一般粉じんの処理装置の種類・ 型式	消火塔, 木製ハードル スプレー
⑧	参考事項	ガイド車の走行炉床強……安全強度以上 ガイド車の軌条幅員 …… 2.5m	

- 備考
- 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
 - 2 参考事項の欄には、ガイド車の走行する炉床の強度、ガイド車の軌条の幅員等について記載すること。
 - 3 一般粉じん発生施設及び一般粉じんの処理又は防止のための装置（フードを含む。）の構造とその主要寸法を記入した概要図を添付すること。

【記載要領】

- ① 工場又は事業場における施設番号 工場、事業場にある届出対象施設全てに一連番号を付けて、その施設番号を記入すること。また、1列に1施設を記入すること。
- ② 名称及び型式 略称を用いないこと。(下表を参照)
- ③ 設置年月日 (ア) 設置届出・・・設置工事の着手予定年月日、使用開始予定年月日を記
 着手予定年月日 (イ) 使用届出・・・設置年月日を記入。
 使用開始予定年月日 (ウ) 変更届出・・・設置年月日(設置の際の工事着手(基礎工事を含む。)年月日)、変更工事の着手予定年月日、使用開始予定年月日を記入。
- ④ 規模 届出の施設にかかる大気汚染防止法施行令別表第2の該当項目及び関係項目について記入すること。
- ⑤ 装炭作業
 (ア)一般粉じんの処理 種類とは、バグフィルター、サイクロン、フード等と記入し、型式についても記入すること。
 装置の種類・型式
 (イ)集じん機効率 当該処理施設によって除去できる一般粉じんの割合を記入すること。
 (ウ)送風機の原動機出力 当該処理施設に送風機がある場合は、その原動機出力を記入すること。
- ⑥ 窯出作業 ⑤に同じ。
- ⑦ 消火作業 ”
- ⑧ 参考事項 ガイド車の走行する炉床の強度、ガイド車の軌条の幅員等参考事項について記入すること。

(参考) 代表的コークス炉の種類

新日鉄式(日鉄式)	燃焼室はヘアピン式、蓄熱室は前後分割式である。蓄熱室を多数に分割する隔壁のため構造が堅固である。また高炉ガス(BFG)の有効利用を図っている。新日鉄式は日鉄式を改良・大型化したものである。
コッパース式	ヘアピン式燃焼室と2分割式蓄熱室を特有の交叉煙道で連絡している。燃焼室は排ガスの一部循環式がある。
オットー式	ヘアピン式燃焼室で高低2段式バーナーによる燃焼を行い、熱効率が低い。
カールスチル式	燃焼室、蓄熱室ともに2分割式で、燃焼室における貧ガス及び空気の供給は多段式。大型炉で使用されている。

(2) ② 別紙2 「一般粉じん発生施設（堆積場）の構造並びに使用及び管理の方法」記載要領

[設置届出記載要領]

別紙2

一般粉じん発生施設（堆積場）の構造並びに使用及び管理の方法

①	工場又は事業場における施設番号	2		
②	名称及び型式	コークス堆積場		
③	設置年月日	年月日	年月日	
	着手予定年月日	R4年6月20日	年月日	
	使用開始予定年月日	R4年8月1日	年月日	
④	規模面積 (㎡)	150,000		
	規模堆積能力 (t)	500,000		
⑤	堆積物の種類、性状及び通常の間延べ堆積量 (t/年)	コークス・比重0.5, 粒径100 mm以下 水分2~20%, 堆積量570,000 t/年		
⑥	堆積場がその中に設置されている建築物の概要			
	使用 及 水	散装置の種類・型式・基数	スプレズル40基, 散水車1台	
		装置の能力 (m ³ /h)	スプレズル200m ³ /h, 散水車20 m ³ /h	
		散水の方法	散水量3~6 l/m ² , 1回/日	
	管理 の 方 法	防じんカバーの設置状況		
		薬液	薬液の種類・名称	防じん剤 (酢ビ系), ○○社製
			装置の種類・型式・基数	スプレーノズル 40基
		散布	装置の能力 (m ³ /h)	200m ³ /h,
			散布の方法	散水に混合
		締固め	装置の種類・型式	ブルドーザー, ○○社製○○
			方法	転圧 1回/日
その他		方法	3方に囲いを設置, 高さ3 m	

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 堆積物の種類、性状及び通常の間延べ堆積量の欄には比重、粒度、水分値の概数及び通常の間延べ堆積量について記載すること。
- 3 散水の方法、薬液散布の方法、締固めの方法及びその他の方法の欄には、実施の量（たとえば散水の場合は水量/l/t）、実施頻度等を記載すること。
- 4 その他の欄には、散水等と同等以上の効果を有する措置について記載すること。
- 5 一般粉じん発生施設及び一般粉じんの飛散防止のための装置の構造とその主要寸法を記入した概要図を添付すること。

【記載要領】

- ① 工場又は事業場における施設番号
工場、事業場にある届出対象施設全てに一連番号を付けて、その施設番号を記入すること。1列に1施設を記入すること。
- ② 名称及び型式
略称を用いないこと。(下表を参照)
- ③ 設置年月日
着手予定年月日
使用開始予定年月日
(ア)設置届出・・・設置工事の着手予定年月日、使用開始予定年月日を記入。
(イ)使用届出・・・設置年月日を記入。
(ウ)変更届出・・・設置年月日(設置の際の工事着手(基礎工事を含む)年月日)、変更工事の着手予定年月日、使用開始予定年月日を記入。
- ④ 規模
届出の施設に係る大気汚染防止法施行令別表第2の該当項目及び関係項目について記入すること。
- ⑤ 堆積物の種類、性状及び通常の年間延べ堆積量
種類とは、石炭、コークス、土石等と記入し、性状とは、比重、粒径、水分値等の概数を記入し、通常の年間延べ堆積量についても記入すること。
- ⑥ 使用及び管理の方法
(ア)堆積場がその中に設置されている建築物の概要
建築物により一般粉じんの飛散を防止できる場合に限り記入すること。
(イ)散水
(a)装置の種類・型式・基数
種類とは、スプレーガン、スプリンクラー等と記入し、型式及び基数についても記入すること。
(b)装置の能力
装置1基当たりが散水できる1時間当たりの水量を記入すること。
(c)散水の方法
散水の実施量(1t・1/m²)及び実施頻度等を記入すること。
(ウ)防じんカバーの設置状況
カバーにより一般粉じんの飛散を防止できる場合に限り記入すること。
(エ)薬液散布
(a)装置の種類・名称
種類とは、防じん剤(酢ビ系)等と記入し、名称についても記入すること。
(b)装置の種類・型式・基数
種類とは、スプレーガン、スプリンクラー等と記入し、型式及び基数についても記入すること。
(c)装置の能力
装置1基当たりが散水できる1時間当たりの液量を記入すること。
(d)散布の方法
散布の実施量(1t・1/m²)及び実施頻度等を記入すること。
(オ)締固め
(a)装置の種類・型式
種類とは、ブルドーザー、タイヤドーザー等と記入し、型式についても記入すること。
(b)方法
締固めの実施方法(転圧等)及び実施頻度等について記入すること。
(カ)その他
散水等と同等以上の効果を有する措置について、実施量、実施頻度、構造等を記入すること。

(参考) 堆積場の種類

屋外方式	円形野積方式	円錐形野積方式	最終端コンベアを固定し、頂部から石炭を自然落下させ堆積・貯蔵する方式
		多円錐形野積方式	品種別に堆積・貯蔵する必要がある場合等に用いられ、コンベア最終端を旋回させ、円錐形パイルを数カ所に設けるもの。
		半円形野積方式	多円錐形野積方式を連続させた方式
		円形野積方式	コンベア最終端を全周旋回させて貯蔵する方式で貯蔵量は増加する。払い出しは中央部から地下コンベアで行われる。
	方形野積方式	長方形野積方式	アンローダ、スタッカー、コンベア等を移動させつつ貯炭する方式
		複式方形野積方式	長方形野積方式を並列又は多数列設け、貯炭能力を増大させたもの。
屋内方式	建屋方式	方形カバー方式	方形野積方式に上屋を設けたもので、通常、数条の長い屋根が並列する形になる。
		バンカー方式	敷地を有効に利用するため、方形カバー方式に擁壁を設けて立体化したものである。
		円形カバー方式	円形野積方式に上屋を設けた形で、ドーナツ状に堆積される。
	ドーム方式	円形カバー方式に擁壁を設けて、敷地を有効に利用する方式。	
	サイロ方式	大型の円筒中に貯炭するもの。	
その他	ピット方式	地下掘込み方式	堆積量の状況、品種別に堆積する必要がある場合には中間に擁壁が設けられたものもある。
		地上枠組み方式	

(2) ② 別紙3 「一般粉じん発生施設（コンベア）の構造並びに使用及び管理の方法」 記載要領

[設置届出記載要領]

別紙3

一般粉じん発生施設（コンベア）の構造並びに使用及び管理の方法

①	工場又は事業場における施設番号	3	4	
②	名 称 及 び 型 式	ベルトコンベアBC - 750	同左	
③	設 置 年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	着 手 予 定 年 月 日	R 4 年 6 月 2 0 日	年 同 左 月 日	
	使 用 開 始 予 定 年 月 日	R 4 年 8 月 1 日	年 同 左 月 日	
④	ベルト幅 (cm) 又はバケット 規 内容積 (m ³)	75 cm	90 cm	
	単基の長さ (m) × 基数	17.3m × 3	30.0m × 1	
	ベルト又はバケットの速度 模 (m/分)	90	80	
	運 搬 能 力 (t/h)	260	280	
⑤	運搬物の種類, 性状及び通常の月間 運 搬 量 (t/h)	骨材 20,000t/h 比重 2.2 粒径10~80mm 水分8~9%	同左	
⑥	コンベアがその中に設置されて いる建築物の概要			
	使 用 及 び 管 理 の 方 法	集 集じん機の種類・型式	バグフィルター	
		塵 集 じん 機 効 率 (%)	98%	
		機 送風機の原動機出力 (KW)	15 KW	
	散 水	装 置 の 種 類 ・ 型 式	散水栓による噴霧	
		装 置 の 能 力 (m ³ /h)	0.26 m ³ /h	
		運搬量当たり散水量 (l/t)	1.0 l/t	
	防 じ ん カ バ ー の 設 置 状 況	アーチ型トタン張り	同左	
そ の 他	方 法	バグフィルター逆洗時は シュート部に散水する。		

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 その他の欄には、散水等と同等以上の効果を有する措置について記載すること。
- 3 一般粉じん発生施設及び一般粉じんの処理又は防止のための装置（フードを含む。）の構造とその主要寸法を記入した概要図を添付すること。

【記載要領】

- ① 工場又は事業場における施設番号
工場、事業場にある届出対象施設全てに一連番号を付けて、その施設番号を記入すること。また、1列に1施設を記入すること。
- ② 名称及び型式
略称を用いないこと。(下表を参照)
- ③ 設置年月日
着手予定年月日
使用開始予定年月日
(ア)設置届出・・・設置工事の着手予定年月日、使用開始予定年月日を記入。
(イ)使用届出・・・設置年月日を記入。
(ウ)変更届出・・・設置年月日(設置の際の工事着手(基礎工事を含む。)年月日)、変更工事の着手予定年月日、使用開始予定年月日を記入。
- ④ 規模
届出の施設にかかる大気汚染防止法施行令別表第2の該当項目及び関係項目について記入すること。
- ⑤ 運搬物の種類、性状及び通常の月間運搬量
種類とは、石炭、コークス、土石等と記入し、性状とは、比重、粒径、水分値等の概数を記入し、通常の月間運搬量についても記入すること。
- ⑥ 使用及び管理の方法
(ア)コンベアがその中に設置されている建築物の概要
建築物により一般粉じんの飛散を防止できる場合に限り記入すること。
(イ)集塵機
(a)集じん機の種類・型式
種類とは、バグフィルター、サイクロン、フード等と記入し、型式についても記入すること。
(b)集じん機効率
当該処理施設によって除去する一般粉じんの割合について記入すること。
(c)送風機の原動機出力
当該処理施設に送風機があれば、その原動機出力を記入すること。
(ウ)散水
(a)装置の種類・型式・基数
種類とは、スプレーガン、スプリンクラー等と記入し、型式及び基数についても記入すること。
(b)装置の能力
装置が散水できる1時間当たりの水量を記入すること。
(c)運搬量当り散水量
運搬量当たりの散水の実施量(l/t)を記入すること。
(エ)防じんカバーの設置状況
カバーにより一般粉じんの飛散を防止できる場合に限り記入すること。
(オ)その他
散水等と同等以上の効果を有する措置について、実施量、実施頻度、構造等を記入すること。

(参考) コンベアの種類

分類	種類	慣用語
ベルトコンベア (Belt Conveyor)	ゴムベルトコンベア(Rubber Belt Conveyor)	ベルトコンベア 布コンベア ネットコンベア
	スチールベルトコンベア(Steel Belt Conveyor)	
	織物ベルトコンベア(Solid Woven Belt Conveyor)	
	金網ベルトコンベア(Wire Mesh Belt Conveyor)	
	ケーブルベルトコンベア(Cable Belt Conveyor)	
エレベーターコンベア (Elevating Conveyor)	バケットエレベーター(Bucket Elevator)	(バケットコンベア)
	アームエレベーター(Arm Elevator)	
	トレーエレベーター(Suspended Tray Elevator)	
	スラットエレベーター(Vertical Articulated Platform Conveyor)	

(2) ② 別紙4 「一般粉じん発生施設（破碎機、摩砕機、ふるい）の構造並びに使用及び管理の方法」記載要領

[設置記載要領]

別紙4

①

一般粉じん発生施設（破碎機、摩砕機、ふるい）の構造並びに使用及び管理の方法

②	工場又は事業場における施設番号	1	2
③	名称及び型式	破碎機 コンクラッシャー (油圧コンNo.1)	摩砕機 ロットミル
④	設置年月日	年月日	年月日
	着手予定年月日	R4年6月20日	年同左月日
	使用開始予定年月日	R4年8月1日	R4年8月8日
⑤	規 原動機の定格出力(KW)	150	80
	模 処 理 能 力 (t/h)	118	50
⑥	処理対象物の種類及び通常の月間処理量（通常）（t/月）	土石 24,000 t/月	石灰石 10,000 t/月
⑦ 使用 及び 管理 の 方 法	破碎機、摩砕機又はふるいが、 その中に設置されている建築物 の概要	鉄骨スレートぶき 6.5×2.5×7m	同左
	集 集じん機の種類・型式		
	塵 集じん機効率(%)		
	機 送風機の原動機出力(KW)		
	散 装置の種類・型式		
		装置の能力(m ³ /h)	
	水 処理量当たり散水量(l/t)		
	防じんカバーの設置状況		
	そ の 方 法 他	土石等を事前に湿潤状態 にし、一般粉じんの発生 を防止する。	同左

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 その他の欄には、散水等と同等以上の効果を有する措置について記載すること。
- 3 一般粉じん発生施設及び一般粉じんの処理又は防止のための装置（フードを含む。）の構造とその主要寸法を記入した概要図を添付すること。

[記載要領]

- ① 届出施設の種類の
不要の文字を抹消すること。なお、ふるいとふるい以外の施設を1つの届出書で届出することは出来ない。
- ② 工場又は事業場における施設番号
工場、事業場にある届出対象施設全てに一連番号を付けて、その施設番号を記入すること。また、1列に1施設を記入すること。
- ③ 名称及び型式
略称を用いないこと。
- ④ 設置年月日
着手予定年月日
使用開始予定年月日
(ア)設置届出・・・設置工事の着手予定年月日、使用開始予定年月日を記入。
(イ)使用届出・・・設置年月日を記入。
(ウ)変更届出・・・設置年月日（設置の際の工事着手（基礎工事を含む。）年月日）、変更工事の着手予定年月日、使用開始予定年月日を記入。
- ⑤ 規模
届出の施設にかかる大気汚染防止法施行令別表第2の該当項目及び関係項目について記入すること。
- ⑥ 処理対象物の種類及び通常の間処理量
種類とは、石炭、コークス、土石等と記入し、通常の間処理量についても記入すること。
- ⑦ 使用及び管理の方法
(ア)破砕機・摩砕機又はふるいがある中に設置されている建築物の概要
関係項目について記入すること。
建築物により一般粉じんの飛散を防止できる場合に限り記入すること。
- (イ)集塵機
(a)集じん機の種類・型式
種類とは、バグフィルター、サイクロン、フード等と記入し、型式についても記入すること。
(b)集じん機効率
当該処理施設によって除去する一般粉じんの割合について記入すること。
(c)送風機の原動機出力
当該処理施設に送風機があれば、その原動機出力を記入すること。
- (ウ)散水
(a)装置の種類・型式・基数
種類とは、スプレーガン、スプリンクラー等と記入し、型式及び基数についても記入すること。
(b)装置の能力
装置が散水できる1時間当たりの水量を記入すること。
(c)処理量当り散水量
処理量当たりの散水の実施量 (lt) を記入すること。
- (エ)防じんカバーの設置状況
カバーにより一般粉じんの飛散を防止できる場合に限り記入すること。
(オ)その他
散水等と同等以上の効果を有する措置について、実施量、実施頻度、構造等を記入すること。